



現在、約70の海外稲門会が世界各地で活動しています。海外に滞在する際は、現地の稲門会を検索して参加してみましょう。
※一部、活動休止中の稲門会もありますことを、ご了承ください。

サンフランシスコ稲門会について

1975年5月、当時キッコーマン・インターナショナルの米国支配人だった故・鈴木進一氏が中心となり、サンフランシスコ(SF)稲門会が設立されました。第1回総会には70人を超える校友が出席。1970、80年代はバブル景気を受けて会員の増減はあるものの、当会は2021年で設立46周年を迎えました。

その間、西原春夫総長、白井克彦総長など、多数の総長を当地にお迎えしました。12年は当会が中心となり、早稲田大学サンフランシスコ

フィス開設祝賀会を催し、鎌田薫総長も来訪。18年はグリークラブOB・倶楽部グリーが当地を訪問され、教会での合唱コンサートや交流会を支援しました。

当会は現在、20代から80歳を超えた会員まで総勢100人ほどを擁しています。20年はCOVID-19の影響で、隔月会や総会はオンラインでの開催となりましたが、本年度より春秋のゴルフ早慶戦や大学同窓会合同バーベキュー、新人歓迎会、隔月会といった企画で、会員の親睦と新会員の開拓に努めます。詳しくは当会のウェブサイトまたはFacebookグループをご覧ください。

高松幸太(1999年理工)



2019年のゴルフ早慶戦では早稲田が勝利!



サンフランシスコ稲門会
ウェブサイト



サンフランシスコ稲門会
Facebook

サンフランシスコの魅力

刺激的でまさに「Work Hard, Play Hard」な毎日をお過ごしています。

宮本直彦(2000年理工、02年工研修)

(上)ヨセミテ国立公園ハーフドーム頂上からの眺め
(下)ワイン産地パソロプレスの季節外れのブドウ畑



サンフランシスコは気候が温和なためとても過ごしやすい街です。車で1時間ほど走ると、カリフォルニアワインの産地として有名なナパやソノマなどのワインカントリーに行くことができ、さらに車を走らせれば、世界遺産のヨセミテ国立公園などの大自然に触れることもできます。

また、当地およびその周辺地域は、世界をリードする最先端テクノロジー企業が集結している場所として有名ですが、街中で自動運転試験車や自動配送ロボットが走り回り、世界を変えてきたシリコンバレーのハイテクを肌で感じることができます。

この地域はさまざまな人種の人々が住んでいるため、自分が日本人・外国人であることに何の違和感もなくなり、また、多様性があるため、仕事もプライベートも

会長メッセージ

の様子(報道されています)。他校に先んじて、しかも国を挙げての戦争の最中に米国遠征を実施したとは、さすが「進取の精神」の早稲田です。カリフォルニア大学パークレー校をはじめとする周辺の大学に留学する学生も増え、彼らへの支援を通じて当会と早稲田大学の距離が一気に縮まっています。

観光・出張・赴任などでサンフランシスコに来られる方は、ぜひ当会にご連絡ください。歓迎します!一緒に校友の輪を広げましょう。

西村 孝(1975年理工、77年工研修)



THE DAILY PALO ALTO
アーカイブ

会員からのメッセージ

コンバレーで活躍中の校友や起業人との交流を通じ、当地のビジネス感覚やネットワーキング手法を肌で感じる、早大留学生も含めた交流案は中止になりました。しかし、今後も多彩な会員を生かしたSF稲門会ならではの多彩な活動に期待しています。

マイヤー恵加(1994年文学、2000年アジア研修)

サンフランシスコを含むテックの聖地、シリコンバレーはGAFAMなどテックジャイアントをはじめ、スタートアップや企業、大学、ベンチャーキャピタルなどが集う世界のイノベーション・エコシステムといわれており、日本でも当地発のテック企業名やサービスを聞かない日はないのではないのでしょうか。バイエリアにイノベーション拠点を持つ企業の国別順位は日本が堂々のトップ(JETRO 2019年ビジネス短信)。多業界からイノベーションを求めて各方面で奮闘する様子を日々目の当たりにしています。チャレンジングな環境下での生活は、早稲田で培った進取の精神の実践にはうってつけです。

青木光政(2005年社学)

SF稲門会のモットーは「同窓の絆を深め、早稲田大学とつながり、さらに人の輪を広げていこう」です。私が第14代会長に就任した直後の2020年3月からCOVID-19によるロックダウンが始まり、これまで歴代幹事が工夫を凝らして企画してきた会員同士の交流の場は全て中止。幹事会、年次総会などはビデオ会議を活用して進めてきました。21年5月にはロサンゼルス稲門会やサンフランシスコ稲門会東京支部の方々にもお声掛けしてオンライン落語会を実施し、皆さんと笑いを共有して近しく交流することができました。

当地と早稲田大学の交流の歴史は長く、日露戦争当時の1905年、早稲田大学野球部が初の米国遠征で戦った相手がスタンフォード大学でした(同年5月1日のTHE DAILY PALO ALTOにそ

1977年、日本企業が米国に進出し好景気のころ、私はメディカル秘書からカリフォルニア州三井銀行の支店長秘書に転職。お得意先から戻ってきた専務が「SF稲門会があるらしいよ」と教えてくれました。早速連絡し、「女性会員が少ないので大歓迎」されてからすでに44年がたちました。90年代になり女性会員が増えたのですが、若い女性会員は年配の男性会員と意見が合わず、「稲門会を男女別々にしましょう」と運動が起こり、一時はどうなるかと思われました。今は一つの稲門会として存続しています。

フランクリン裕子(1973年文学)

当会の副会長として、古本市、早稲田出身の監督の映画鑑賞会、パークレーにある日本酒蔵の訪問など、日本文化の強みとバイエリアの多文化性のシナジーを生かした会員交流活動を企画・実施しました。コロナ禍のため、シリ



秋の恒例イベントとなった古本市